

# 住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1991号 2009年10月26日(月)

## 《 a trend of selling Japan 》

この1～2週間くらいの傾向なのだが、円相場には今までにない要素が加わったように見える。それは、「民主党政権下での経済政策の混迷」「それに伴う日本経済の低迷予想」、加えての「日本の財政赤字増大による財政事情の大幅悪化予想」など、言ってみれば「日本売り」の様相である。株や債券にもその傾向が見える。

リーマン・ブラザーズの破綻を切っ掛けとした通貨市場の大きな混乱の中であって、今まで円は一貫して「Safe Heaven」通貨として存在してきた。当初は震源地から遠い、日本の金融システムはしっかりしているというのが理由で、その後の円相場の動きを見ると危機の増大は円相場の上昇をしばしば惹起してきた。今でも市場では、「危機の深まり→円相場の上昇」という連想が残っている。ドルが弱いだけに、円は世界で自由に取引が可能な通貨の中ではユーロと並んで大きな存在であり、「代替投資先」「避難投資先」の地位はあると思われる。

しかし、日本経済が抱える問題は深刻である。今朝の朝刊各紙には、「日本の潜在成長力の大幅で足早な低下」が報じられている。例えば朝日新聞は「日本銀行が、日本経済の「実力」の評価を引き下げる」との書き出しで、30日に公表される日銀の「経済・物価情勢の展望（展望レポート）」を取り上げている。その中味は、「日銀は日本の潜在成長率を4月時点の“1%前後”から“1%以下”に下方修正する見通しだ。景気後退でモノが売れず、企業の設備投資が伸び悩んだため」としている。

潜在成長率は、国内の労働力や設備、技術を無理なく使って「中長期的に持続可能」とみられる実質国内総生産の伸び率。1年前の08年10月のレポートで潜在成長率は「1%台半ばないし後半」となっていたが、その後の大幅な景気悪化で、生産設備の増え方が落ち込んだことから今年4月は「1%前後」に下方修正。今回で2期連続の引き下げになる。

人口が減少期に入った日本が潜在成長率を引き上げるには、生産性を上げることである。技術革新に積極的に投資し、日本経済を強いものにならなければ出来ない。しかし今の民主党政権には、成長戦略がないばかりか、政権としての政策が経済全体をどう動かそうとするかの発想がない。各大臣がマニフェストを気にしながら、騒動を巻き起こしながら辺り構わず走り回っているだけである。経済が順調な時期ならそれも「政権発足時の予見された混乱」で済んだが、今はそれがもっとも経済に与える影響の大きな時期である。民主党の政権運営の不慣れはやや目立つものとなってきている。

株価を見ると、インドや中国など途上国は言うに及ばず、アメリカを含め世界の主要国の株価はリーマン以前を回復した。しかし日本だけは、危機以前を日経平均で2000円ほど下回っている。それは日本経済への海外投資家の失望と理解することが出来る。その中には、民主党政権の経済政策運営に対する展望のなさが入っていると考えられる。

民主党は参議院の補選で2戦2勝であり、引き続き高い国民支持率を誇る。これは、一年ごとに政権を代えた自民党に対する嫌悪感が引き続き国政レベルでは強いことの反映であると考えられる。しかし、民主党は軋轢を起こしている地方政府との関係では「熱が冷めた」状況にある。

むろん円相場が民主党の政権運営に対する市場の見方だけで決まるわけではない。ドルに対する見方も大きな変化の中にあり、全体的な状況の中でこれからも円が対ドルで、またその他の通貨に対して上昇する局面はあるだろう。オーストラリア・ドルなどの資源国通貨に対して円は既にかなり売られているという状況もある。よって、円の下値余地も限られている状況だ。しかし円を取り巻く状況は、「何かの時には買いの通貨」という地位は危うくなっていると考えられる。

### 《 schedule this week 》

今週の主な予定は以下の通りです。

- |             |   |
|-------------|---|
| 10月26日（月曜日） | 鳩山首相所信表明演説<br>9月シカゴ連銀全米活動指数                               |
| 10月27日（火曜日） | 米10月コンファレンスボード消費者信頼感指数<br>米8月S&Pケースシラー住宅価格指数<br>米2年債入札    |
| 10月28日（水曜日） | 9月商業販売統計<br>2年利付国債入札<br>米9月耐久財受注<br>米9月新築住宅販売件数           |
| 10月29日（木曜日） | 米3Q GDP（速報）<br>9月鉱工業生産（速報）<br>米3Q個人消費<br>米7年債入札           |
| 10月30日（金曜日） | 9月家計調査<br>10月東京都区部消費者物価<br>9月全国消費者物価<br>9月労働力調査<br>9月住宅着工 |

9月建設工事受注  
日銀政策決定会合「経済・物価情勢基本的見解」  
日銀総裁記者会見  
米9月個人所得・支出  
米9月PCEコアデフレーター  
米3Q雇用コスト指数  
米10月シカゴ購買部協会景気指数  
米10月ミシガン大学消費者信頼感指数（確報）

### 《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。ちょっと寒かったですね。土曜日は大阪にいたので、PCの画面で東京の温度を見たら相当寒かったのも、やはり東京の方が大阪よりは寒いということになる。当たり前ですが、関西はちょっと東京よりは温かいことが多い。

ところで、このたった2週間の間に私のコンピューター利用術は劇的に効率的になりましたので紹介しましょう。このニュースをお読みの方の中にも、コンピューターを様々な形で使っておられるでしょうから。いくつかの理由があるのですが、ポイントとしては、

1. dropbox（クラウド・サービス的一种 getdropbox.com で入手可能）を利用することにより、コンピューター間のデータ移動にかかる時間がゼロになったし、USBメモリーというやっかいな代物を持ち運ぶ理由がなくなった
2. quanp（同 リコーのHPから入手）の利用により、データを安全にストレージすることが可能になり、dropboxに常に入れておく必要のないファイルはここに格納して、必要なときだけ取り出せば良くなった
3. google document を使うことにより、ワードなどのソフトウェアを起す必要度が著しく減少し、試し書きが自由にできるようになり、またブラウザにどのコンピューターからもアクセスできることにより書きかけの文章を移動する不自由から解放された
4. 私のマシン・ラインアップの中で死にマシン、継子だったビスタが「7」で稼働化して、ファイル間移動や表示が非常にスムーズになって、コンピューター作業間のつながりが非常に良くなった

などでしょうか。むろんまだファイルの保持力には疑念がありますから、時々ファイルのセーブは外部記憶装置などにしていますが、以前のように気を遣う必要がなくなったのはうれしい。「7」はこの週末にかなり使いましたが、特に64ビットのそれは素早く動く。ビスタの時代からのソフトウェアの引き継ぎ状況も良好です。「7」はなかなか優れたOSだと思う。

つい最近まで非常に頻繁に使っていたソフトウェア(例えばワード)を使う回数が減り、dropbox や quanp などつい最近まで全く知らなかった、または存在を認知していなかったソフトで仕事ができるようになってきている、ということは「コンピューターはもっと進化する」「人間に役立つものになる」ということでしょうか。ナイス。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所首席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》